Candy
in the Heart
562

118 なる様になる迄だ・・・・・・・・・・・・・・558

なる様になる迄だ

僕はわざと目立つように
皆の端の方を歩いた。
「僕に気がつくかなあ」
と見ながらゆっくり歩いた。

やっと、気がついて、その子の表情が
明るくなった様に見えた。

僕が見ているのに気がついて、
ニッコリした。

登り坂は険しく、足が重くて、つらい。

今日はよく晴れてる。
太陽ががんがん。

足の筋がつりそうなので、立ち止まって、
汗をふいて、谷間の下をのぞいたが、
もう旅館は、はるか下で何も見えない。

上に登りつめてバスのところまで、
来たはいいが、発車まで間がある。

その間に、水物をどんどん
体の中へ流し込む。
旅館で入れてもらってあった
水筒のお茶はもうない。
飲みものでこの先、お金がなくなりそうで心配だ。

萩原良昭